

# センシング先端技術動向調査報告会

## —平成25年度「センシング技術専門委員会」活動報告—

■主催：センシング技術専門委員会

■担当部署：知的技術部

■参加者数：約80名

### 概要

JEITAセンシング技術専門委員会（委員長：本多敏氏・慶應義塾大学）では、IT・エレクトロニクス産業の基盤技術として重要なセンシング技術について、開発動向、市場調査など、先端技術の動向調査等を実施しています。委員会では、傘下に分科会を設置し、センシング技術に関する調査テーマを選定して、それぞれの切り口から情報収集を行っています。今回の報告会では、平成25年度にセンシング技術専門委員会で実施した各分科会の活動報告と、(株)村上憲郎事務所／村上憲郎氏による「ウェアラブルとO2Oが切り拓くICTの新地平」と題して、特別講演が行われました。

報告会では、最初に名古屋工業大学／本谷秀堅氏から、実应用到耐えるソーシャル・センシングを実現するためには、情報解析やシステムをデザインするための方法論が必要であり、システムの在り方について、インテルの研究チームによるブドウ畑におけるセンサーネットワーク調査等の紹介がありました。豊橋技術科学大学／澤田和明氏からは、QOLのためのセンサ・デバイス技術として医療、高齢化社会、食の安全、美容、住環境などのキーワードから、スマートハウスのセンサー動向、社会インフラの老朽化診断などに活用されているセンシング技術、また東北におけるスマート農業の現状と課題などについて報告されました。東京大学／篠田裕之氏からは、人の感性について、特に触覚を中心として触覚と通信、触覚と視覚の融合、触覚による癒しの効果、医療分

野における触覚技術、技能の伝承、などの5つの注目分野に分けて調査を行った報告と、触り心地という新しい価値の重要性について紹介いただきました。最後に、特別講演として、グーグル日本法人前名誉会長／村上憲郎氏（(株)村上憲郎事務所代表取締役）から、サイバー空間の勝者たちのリアル世界への進出という新地平についてお話しをお伺いし、ICTの近未来を考察するとともに、新たなビジネスモデルの在り方や方向性など、その可能性についてご講演いただきました。

報告会は、センシング技術専門委員会幹事の肥塚哲男氏（(株)富士通研究所）の司会・進行により、本多敏之氏（慶應義塾大学）の開会挨拶の後、以下の内容で進められました。



## プログラム

**【司会】** センシング技術専門委員会 幹事 肥塚 哲男 氏（㈱富士通研究所）

○開会の挨拶

センシング技術専門委員会 委員長 本多 敏之 氏（慶應義塾大学 理工学部 教授）

○「ソーシャル・センシング技術調査」

ソーシャル・センシング技術分科会 委員長 本谷 秀堅 氏（名古屋工業大学 情報工学科 教授）

○「センサ・デバイス技術調査」

センサ・デバイス技術分科会 委員長 澤田 和明 氏（豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系 教授）

○「触覚を中心とした感性センシング応用ロードマップ技術調査」

感性センシング応用ロードマップ技術分科会 委員長 篠田 裕之 氏（東京大学 大学院 新領域創成科学研究科 教授）

○招待講演「ウェアラブルとO2Oが切り拓くICTの新地平」

村上 憲郎 氏（㈱村上憲郎事務所 代表取締役）